

第3回 The 3rd Annual Meeting of Japanese Association for Home Care Medicine

日本在宅医療連合学会大会

会期 2021年11月27日(土)~28日(日)

会場 Web開催

大会長 山中 崇 (東京大学大学院医学系研究科 在宅医療学講座)

副大会長 木下 朋雄 (和光ホームケアクリニック)

プログラム・講演抄録集



つながる

在宅医療の実践とエビデンスの構築



BP1-3

在宅医療における ICT を活用した臨床倫理相談の 取り組み

杉浦 真¹⁾、岡本 雅彦²⁾

¹⁾ 安城更生病院 脳神経内科 在宅医療連携推進センター、²⁾ アイエム
クリニック・安城

【はじめに】臨床現場では日々、臨床倫理的問題が生じている。特に在宅医療の現場は倫理的問題に脆弱である。在宅医療では医療介護従事者が単独で行動することが多く密室になりやすい。そのため誰とも相談せずに個人の価値観による独善的な判断に陥りやすい。また倫理的問題に気づいたとしても支援する体制がない。今回、在宅医療の現場で生じる倫理的問題に対して相談窓口を開設した。

【活動】相談窓口を開設するにあたり行政、医師会と協議した。毎月開催される地域ケア推進会議で事業について説明し、訪問看護やケアマネージャーなどの各部会に周知を行った。2020年9月より運用を開始。運用手順は以下のとおり。①相談者は事例提供フォーマットに相談内容をまとめ、当院の臨床倫理コンサルテーションチームに送信、②倫理チーム内で検討、③提案内容を相談者へ返信、場合によっては倫理カンファレンスの開催。現在までに3例の相談依頼があった。相談者はすべて医師であり、相談内容は「認知症患者の意思決定」、「終末期患者の治療・ケアの差し控えや中止」であった。また当地域で活用されているICTによる情報共有ツール「サルビー見守りネット」内のプロジェクト機能を利用し、臨床倫理の基本的な知識や考え方などを定期的に発信して市内の医療介護従事者と情報共有を行っている。

【考察】倫理性の高い医療者ほど倫理的問題への対応に苦慮し、バーン・アウト（燃え尽き症候群）してしまう危険がある。そのために気軽に相談ができる支援体制が必要である。そして臨床倫理的な問題とは倫理的価値の対立（倫理的ジレンマ）である。この倫理的ジレンマに気づくことが最も重要なことである。価値観の多様性を意識し倫理的ジレンマへの感受性を高めることが倫理的問題に対し強くなる手段である。ICTは患者情報の共有だけでなく、地域でひとつのテーマ（領域）を実践していく場合の教育・啓発に有用と考えられる。

利益相反：無